

国立劇場再整備に関する有識者検討会（第4回） 議事要旨

1. 日 時 令和6年5月9日（木） 10：30～12：15

2. 場 所 独立行政法人日本芸術文化振興会 第1会議室

3. 出席者

（委 員）尾上委員、佐藤委員、板東委員、平子委員

（振興会）長谷川理事長、杉浦理事長代理、大木理事、切替理事

4. 議事要旨

（1）前回検討会の議事要旨確認

第3回検討会の議事要旨を承認。

（2）意見の概要（中間とりまとめに関して議論が行われた。）

- ・一刻も早い再開場のためには、改修ではなく建替えが適切であり、入札を確実なものにすることが必要。建設の物価高騰分だけでも確保できれば、民間もPFIを利用して自由な発想で、運営や維持費を考えたより自由なプランが出てくると思うので、その部分を訴えていけばよいのではないか。
- ・建替えが必要ということを前提としたうえで、隼町という立地の積極的な意味合いを加えていくことが考えられる。この土地において新しい国立劇場の在り方を積極的に打ち出していくという前向きな姿勢は必要である。
- ・財源の確保について、まず国が必要な財源を準備するという意味合いになっていない。必要な財源を国が準備して、そこに民間の資金が加わるのでなければ、安定した資金は得られない。入札不調はその問題が解決されなければ免れない。
- ・芸文振の責任において確保しなければいけないというよりは、直接・間接に国が関わりながら、民間資金の投入も方法の一つとして視野に入れながら、全体の財源確保については国が責任を持つべきである。
- ・国の責任を言う一方で、民間の資金を導入するというのは、正反対な意味に感じられ、実際に民間に主導権が渡ってしまうのではないかという危惧がある。
- ・二度の入札不調となり、依然として物価高騰、建築事業のひっ迫という状況にある中、国による財源確保がないまま再度入札することは、条件を下げることにもつながりかねないなど、大きな不安がある。
- ・必要な財源は国がちゃんと確保すべきだということはしっかり抑えるべき。
- ・政府・与党における検討においても、この中間まとめを大事にしてほしいということは盛り込むべきだと思う。また当然、芸文振における今後の検討の中にも活かし、それらの検討についてスピード感を持って臨んでほしい。

- ・外部の有識者が入って意見を言うことで、内部の理論だけにとどまらない様々なアイデアが生まれる。この中間まとめを受け取った振興会がどう対応するかについて、ここで交わされた議論をしっかりと反映してほしい。

以上